

8

2023年度
支援対象者による活動報告

石戸谷 由梨 (いしとや ゆうり)

一般社団法人
Dots to Code [代表理事]

お茶の水女子大学
理学部情報科学科 [4年]

<https://dotstocode.studio.site/>

▶ プロフィール

お茶の水女子大学に進学後、女子学生向けのSTEM教育を展開するNPO法人でのインターンを経験し、「ジェンダー×IT」をテーマに活動をはじめ。防犯アプリの『あんしん夜道』や『あんしんアラート』を開発。国内最大級の女性&ノンバイナリーの方向けハッカソン「Dots to Code」の代表を務める。

▶ 活動支援金の活用状況について

国内最大級の女性&ノンバイナリー向けハッカソン「Dots to Code」では、スポンサー不足を想定し準備資金として使用を計画しましたが、最終的にスポンサー資金で賄うことができました。ただし、振込時期の遅れから準備段階に必要な費用を一時的に支援金で補填し、また、運営体制を強化するための会社設立費用にも活用しました。また、スポンサーや参加者獲得のための交通費や定期代の購入にも充当し、埼玉と東京間の移動に活用しました。

さらに、研究者を目指す将来の目標に向けて、海外PhD進学準備としてTOEFLなど高額な英語試験費用に充てました。その結果、来年テキサスでの研究留学が決定しました。

最後に、安心して暮らせる社会を目指したアプリ「あんしん夜道」や3500ダウンロードを突破した「あんしんアラート」の継続開発費用にも活用しています。支援金を通じて多くの活動が実現できたこと、心より感謝申し上げます。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

現在、理系学生として以下の3つの視点からジェンダーギャップ解消に取り組んでいます。1つ目は「アプリ開発のエンジニア」、2つ目は「Dots to Codeを主催する起業家」、3つ目は「IT×ジェンダーの研究者」としての活動です。これらの取り組みを通じ、ジェンダーギャップは根深い課題であり、多角的なアプローチが不可欠であると痛感しました。特に、ジェンダード・イノベーションの分野において、日本ではビジネス面での注目に対し、学術的な定着が遅れている現状があります。「ジェンダーは人権問題であり、収益手段ではない」という本質が見失われつつある中、私は情報科学にジェンダー視点を取り入れ、この分野を発展させる研究者として社会を変革したいと考えています。女性リーダー支援基金のご支援を通じ、これからも課題解決に向けた挑戦を続けていきます。

<活動報告サイト> https://www.recruit.co.jp/blog/guesttalk/20240402_4981.html

https://socialcoffeehouse.arca.tokyo/?course=id4umt_ft5

<https://www.cyberagent.co.jp/way/list/detail/id=30486>



郡司 日奈乃 (ぐんじ ひなの)

千葉大学大学院 人文公共学府
博士後期課程

一般社団法人Spice [代表理事]

<https://spice-edu.org/>

▶ プロフィール

1999年千葉県生まれ。専門は教育方法学(授業実践開発研究)。主権者教育や包括的性教育など、現代的な諸課題を踏まえた教科等横断的な授業・教材づくりについて実践的に研究を行う。子どもの意見表明権が保障された社会の実現を目指して活動し、千葉市子ども基本条例検討委員、子ども家庭庁有識者会議の委員を務める。

▶ 活動支援金の活用状況について

まず、ロビイング活動における交通費として使用し、文部科学省や子ども家庭庁、地方自治体、各政党の議員を訪問しました。これにより、政策提言や意見交換を行い、関心のある分野における様々な施策・政策を具体化するためのアプローチを行っています。

また、2025年3月に予定しているスウェーデンへの留学費用として割り当てました。スウェーデンでは、子どもの権利が保障され、多様な形で民主主義を体験できる社会システムを学び、そこで得たグッドプラクティスを日本に持ち帰り、国内での権利保障を推進するための検討材料としたいと考えています。

さらに、日本ファンドレイジング協会主催のファンドレイジングスクールに第9期生として参加し、参加費として約15万円を活用しました。このスクールでは、戦略的な資金調達や組織成長のための知識とスキルを習得し、今後の活動を持続可能なものにすることを目指しています。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

現在は、理論と実践と政策の3つの領域を往還しながら、活動を行っています。

8

2023年度
支援対象者による活動報告

石戸谷 由梨 (いしとや ゆり)

一般社団法人
Dots to Code [代表理事]

お茶の水女子大学
理学部情報科学科 [4年]

<https://dotstocode.studio.site/>

▶ プロフィール

お茶の水女子大学に進学後、女子学生向けのSTEM教育を展開するNPO法人でのインターンを経験し、「ジェンダー×IT」をテーマに活動をはじめ。防犯アプリの『あんしん夜道』や『あんしんアラート』を開発。国内最大級の女性&ノンバイナリーの方向けハッカソン「Dots to Code」の代表を務める。

▶ 活動支援金の活用状況について

国内最大級の女性&ノンバイナリー向けハッカソン「Dots to Code」では、スポンサー不足を想定し準備資金として使用を計画しましたが、最終的にスポンサー資金で賄うことができました。ただし、振込時期の遅れから準備段階に必要な費用を一時的に支援金で補填し、また、運営体制を強化するための会社設立費用にも活用しました。また、スポンサーや参加者獲得のための交通費や定期代の購入にも充当し、埼玉と東京間の移動に活用しました。

さらに、研究者を目指す将来の目標に向けて、海外PhD進学準備としてTOEFLなど高額な英語試験費用に充てました。その結果、来年テキサスでの研究留学が決定しました。

最後に、安心して暮らせる社会を目指したアプリ「あんしん夜道」や3500ダウンロードを突破した「あんしんアラート」の継続開発費用にも活用しています。支援金を通じて多くの活動が実現できたこと、心より感謝申し上げます。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

現在、理系学生として以下の3つの視点からジェンダーギャップ解消に取り組んでいます。1つ目は「アプリ開発のエンジニア」、2つ目は「Dots to Codeを主催する起業家」、3つ目は「IT×ジェンダーの研究者」としての活動です。これらの取り組みを通じ、ジェンダーギャップは根深い課題であり、多角的なアプローチが不可欠であると痛感しました。特に、ジェンダード・イノベーションの分野において、日本ではビジネス面での注目に對し、学術的な定着が遅れている現状があります。「ジェンダーは人権問題であり、収益手段ではない」という本質が見失われつつある中、私は情報科学にジェンダー視点を取り入れ、この分野を発展させる研究者として社会を変革したいと考えています。女性リーダー支援基金のご支援を通じ、これからも課題解決に向けた挑戦を続けていきます。

<活動報告サイト> https://www.recruit.co.jp/blog/guesttalk/20240402_4981.html

https://socialcoffeehouse.arca.tokyo/?course=id4umt_ft5

<https://www.cyberagent.co.jp/way/list/detail/id=30486>



郡司 日奈乃 (ぐんじ ひなの)

千葉大学大学院 人文公共学府
博士後期課程

一般社団法人Spice [代表理事]

<https://spice-edu.org/>

▶ プロフィール

1999年千葉県生まれ。専門は教育方法学(授業実践開発研究)。主権者教育や包括的性教育など、現代的な諸課題を踏まえた教科等横断的な授業・教材づくりについて実践的に研究を行う。子どもの意見表明権が保障された社会の実現を目指して活動し、千葉市子ども基本条例検討委員、子ども家庭庁有識者会議の委員を務める。

▶ 活動支援金の活用状況について

まず、ロビイング活動における交通費として使用し、文部科学省や子ども家庭庁、地方自治体、各政党の議員を訪問しました。これにより、政策提言や意見交換を行い、関心のある分野における様々な施策・政策を具体化するためのアプローチを行っています。

また、2025年3月に予定しているスウェーデンへの留学費用として割り当てました。スウェーデンでは、子どもの権利が保障され、多様な形で民主主義を体験できる社会システムを学び、そこで得たグッドプラクティスを日本に持ち帰り、国内での権利保障を推進するための検討材料としたいと考えています。

さらに、日本ファンドレイジング協会主催のファンドレイジングスクールに第9期生として参加し、参加費として約15万円を活用しました。このスクールでは、戦略的な資金調達や組織成長のための知識とスキルを習得し、今後の活動を持続可能なものにすることを目指しています。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

現在は、理論と実践と政策の3つの領域を往還しながら、活動を行っています。

特に包括的性教育を学ぶほどに、これは人権基盤であることに気付かされ、ここ数年では「子どもの権利保障」もテーマにして活動を行っています。

- 千葉市におけるこども若者の権利保障を含めた「こども若者基本条例(仮称)」の公募委員となり、約2年間積極的に議論に関わってきました。次の3月議会で議論される予定です。
- 2024年3月からユースセンター開設に向けて事業を立ち上げ、千葉市において10代・20代のこども若者の「やりたい」の実現を後押しをする拠点<ちばユースセンターPRISM>を同年9月に設立することができました。安心安全な居場所であると同時に、こども若者が社会参画をする時のきっかけづくりを千葉市から進めていきたいと思えます。
- 次期学習指導要領における「子どもの権利保障」や「包括的性教育」の議論を加速できるよう、ロビイングを重ねています。
- 国内人権機関の設置に関するロビイングを重ねています。

<活動報告サイト> <https://youthconference.jp/archives/7537/>
<https://youthconference.jp/archives/7560/>
<https://youthconference.jp/archives/7698/>
<https://youthconference.jp/archives/7855/>



芹ヶ野 瑠奈 (せりがの るな)

日本若者協議会 [コアキャンペナー]
(環境政策委員会、ジェンダー政策委員会)

早稲田大学政治経済学部

<https://youthconference.jp>

▶ プロフィール

高校生の時から気候変動活動を始め、気候変動についての世論喚起を行う活動やメガバンクの化石燃料への投資を止めることを要求する活動を行う。今は若者の声を政治に届ける超党派のアドボカシー団体である日本若者協議会で若者の政治参加、ジェンダー、そして気候変動の問題に関する政策提言活動を行っている。早稲田大学政治経済学部4年。

▶ 活動支援金の活用状況について

2024年の3月にベルリンで日本若者協議会が開催した民主主義教育のスタディーツアーに参加した際の費用(渡航費)に支援金の一部を使用した。スタディーツアーではドイツの連邦政府および地方自治体、ユース団体がドイツでどのように民主主義教育を行い、民主主義の向上に努めているのかについて学んだ。また、そこで学んだ内容とできたコネクションを活かし、帰国後に日本の教育者に向けたオンラインイベントを行なった。

2024年の9月にニューヨークの国連本部で開催された未来サミットに出席した際の費用(渡航費)に支援金の一部を使用した。サミットではサイドイベントを主催し、日本のユースの政治参加の現状を共有すると共に、世界中で活躍する若者と貴重なネットワークを形成することができた。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

日本の温室効果ガス削減目標とエネルギー基本計画が1.5度目標と整合するように1年かけて超党派でロビイングを行ってきた。そのことによって初めて自民党と公明党の連立政権合意文書に「1.5度目標」が入った。また、政府の審議会に気候変動活動を行っている若者を入れるよう1年かけてロビイングを行い、9月にヒアリング対象として経済産業省に委員会に招集された。

日本政府と東京都の痴漢対策強化を求めてロビイングを実施。東京都議会に提出した「痴漢被害者に対して早期に、長期で再犯防止に向けた支援を実施するよう求める陳情」が全会派一致で趣旨採択された。日本国内と世界各地での若者の政治参画と意思決定への意味のある参加を促すために、世界中の若者団体と連携を行うプロジェクトを現在企画中。



鶴田 七瀬 (つるた ななせ)
一般社団法人ソウレッジ [代表理事]
<https://sowledge.com>

▶ プロフィール

通っていた大学で新生児遺棄の事件がおきたことや、自身の親友が性被害に遭い傷ついたことをきっかけに、性教育の活動を開始。現在は、ユースクリニックをつくりたいと考える医療者などと海外の施設訪問をするソウリンクス事業と、ユースクリニック立ち上げのための資金サポートを行うユースクリニックサポートファンド事業を実施しています。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

いただいた支援金をもとにアメリカのビジネスカンファレンスに参加し、避妊薬を販売する企業 (cadence OTC) の共同代表 Nap Hosang に会い協力を仰ぎました。

そこから、どのようにしたら日本で避妊薬を安く販売することができるかを月に2回ほどのペースで相談し、ビジネスな可能性を模索していましたが、承認薬を販売するためには日本に工場が必要であり、そのための資金と仲間集めをどう乗り越えるかの課題がまだ解決できていません。

また、緊急避妊薬がOTC化するかも大きく関わり、市販化の検討が進んでいないことも解決策の不透明度を増す要因になっています。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

上記の状況により、現在は今すぐに実施できること (ユースクリニックサポートファンド) に注力しながら、製薬の可能性も模索しています。

ユースクリニックサポートファンドは、全国のユースクリニックの経営の安定をサポートします。

現在はマンスリーサポーターの募集から始め、今後は休眠預金の分配やソウレッジが集めた企業寄付を用いてユースクリニック拡大のための事業投資 (のような寄付) を行っていきたいと考えています。

[<活動報告サイト>](#) ユースクリニックサポートファンドのホームページを12月上旬にリリース予定



冨永 華衣 (とみなが はなえ)
首都圏青年ユニオン [副執行委員長]
https://www.instagram.com/syutokengakusei_union/profilecard/?igsh=YzgyNTg2NjRocnI2

▶ プロフィール

自身のバイト先の労働問題をきっかけにユニオンに入り、社会運動に階級的な視点が足りていないことを実感し、ユニオニストになりました。経済的、時間的、精神的な余裕がない人たちが変えたいこと、叶えたい夢をあきらめざるを得ない労働者が労働運動という選択肢を知れるよう活動しています。

▶ 活動支援金の活用状況について

今年4月に、隔年でアメリカ・シカゴで開催されているレイバーノーツ大会に参加しました。同大会では、世界中からユニオニスト (労働運動家) が集まり、交渉や組織化のノウハウ、経験や障壁などについて3日間にわたって数百のワークショップを開き、共有します。そこに日本の若いユニオニストとして参加し、日本ではなかなか出会わない世界中から来た同世代のユニオニストと交流し、ユニオニストとしての心構えや労働運動と市民運動のつながりについて強く刺激を受けました。ユニオニストたちの視野の広さや人間的な魅力を目の当たりにし、ロールモデルとなる人々と関係性をつくることができました。また8月にはマサチューセッツ大学で開講された5日間の女性ユニオニストのためのサマースクールに参加し、アメリカにおけるユニオンのあり方や組合員同士をエンパワーする方法について体感しながら学びました。今後これらを日本の労働運動に取り入れたいです。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

シスジェンダー男性ではないユニオニストというのは日本にはまだまだ非常に少なく、私自身も組合内や相談者からのジェンダー差別、マイクロアグレッションによって活動意欲を削がれることが多々あります。しかし、男性でないからといってユニオニストに向いていないとは思わないし、むしろこれまでずっと家庭内で無償の労働を提供し、賃労働においても「家計補助」的な収入を稼ぐ一人前の労働者ではないとみなされ、不安定な雇用で弱い立場に据え置かれる属性の労働者こそ、労働運動の可能性を秘めていると感じています。強い者だけが生き残れる社会ではなく、弱い者が尊厳を持って生きられる社会をつくるには、労働運動で女性やセクシャルマイノリティー、学生、障害者、外国人などが労働者としてのアイデンティティーをもって意思表示をするしかないと思います。



中村 涼香 (なかむら すずか)
KNOW NUKES TOKYO [代表]
<https://know-nukes-tokyo.com>

▶ プロフィール

2000年長崎県生まれ、24歳。上智大学卒。祖母が被爆者の被爆3世。高校時代から核兵器の廃絶を求める平和活動に参加。大学進学と同時に上京後「核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN)」キャンペーナーとして核兵器禁止条約を推進。被爆地の外でのアクションを更に広めるために東京を拠点とした「KNOW NUKES TOKYO」を設立、代表を務める。

▶ 活動支援金の活用状況について

- 核兵器禁条約第二回締約国会議渡航費の一部(メンバー4人を派遣): 90万円(※全体では118万円)
- 「あたらしいげんぱく展」開催費用(会場内装飾、パネル印刷など): 10万円

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

これまで核軍縮を含む安全保障の議論は男性を中心に行われてきた。また、市民による反核のムーブメントは主婦を中心に広がり、女性の割合が比較的が多いものの、そのリーダーを務めるのはやはり男性が多かった。男性か女性かという単調な議論に収めてはいけませんが、ここにジェンダーギャップがあることは間違いない。被爆80年を迎えるにあたり、世間ではより一層「継承」という言葉が叫ばれているが、私はこうした従来の平和活動の形をそのまま踏襲するだけでは十分ではないと考える。積極的に新しいことに挑戦しながら、女性がリーダーシップを取るこれからの平和活動の形を社会に提案し、実際に率いていける存在になりたいと思う。

<活動報告サイト> https://note.com/know_nukes_tokyo/n/n7ec3b7506faf (活動レポート記事)
<https://www.asahi.com/articles/ASS1C6285S14TOLB008.html> (メンバー取材記事)



原田 いくみ (はらだ いくみ)
一般社団法人ハウリング [代表理事]
<https://howling1414.wixsite.com/my-site-2>

▶ プロフィール

ネグレクト・生理の貧困・発達障害・不妊治療を経験してマイノリティ視点の発信をはじめ。誰もが安心できるジェンダーギャップのない社会を目指し、一般社団法人ハウリングを立ち上げる。若者の投票率を上げる為のイベントや多様性の理解を広める市民活動をする中で政治分野の大切さを感じ、2022年市議会議員選に挑戦するも次点で落選。

▶ 活動支援金の活用状況について

選挙に出ると決めてから多くの壁がありました。今社会にある「マイノリティが選挙に挑戦できない理由」を可視化し、打開したい。女性をはじめマイノリティが安心してチャレンジできる方法と当選できる地盤を作りたいと考えています。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

貴重な機会をありがとうございます。先に選ばれた先輩たち同様、ジェンダーギャップ解消を実現するために全力で取り組みます。

9

2022年度
支援対象者による活動報告

井田 奈穂 (いだ なほ)
一般社団法人あすには [代表理事]
<https://asuniwa.org>

▶ プロフィール

選択的夫婦別姓の法制化を目指し、2018年立ち上げた当事者団体を2023年法人化。約800人のメンバー登録者、経済・法曹団体などと地方議会・国会への陳情活動を協働。2024年国連女性差別撤廃条約に基づく日本審査に参加、4度目の改善勧告につなげた。ForbesJAPAN「いま注目のNPO50」に選出。

▶ 活動支援金の活用状況について

法人設立に関わる費用の一部として、以下、助成金から支出させていただきました。

- 公式サイト作成料
- 印鑑、ポスター作成等クラウドファンディング開始
- 設立登記にかかわる行政書士への依頼料一式
- 行政書士への顧問料(2023年9月~10月)
- 税理士への顧問料(2023年9月~10月)
- 法人拠点賃料(2023年6月~10月)
- 法人設立発表記者会見に関わる費用一式
- 記者会見資料印刷代
- ビデオメッセージ編集料

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

2023年夏の法人化にあたり、7チームの組織を立ち上げた。地方議会では選択的夫婦別姓推進の意見書が全国で少なくとも426件可決されているが、陳情チームでは香川県、北海道・十勝管内の全議会での可決を達成。可決議会の議長・国会議員・当事者を招いた記念イベントを実施。グローバルチームではスイス・ジュネーブで実施された女性差別撤廃条約(CEDAW)に基づく日本審査にNGOとして参加。10月29日CEDAWが公表した包括所見では、選択的夫婦別姓について最重要項目の1つとして取り扱われ、当法人側が求めていた勧告内容がほぼ反映された通算4度目の改善勧告が出た。これをもって2025年通常国会での法制化を目指し、各党での勉強会、関係省庁との意見交換を巡回実施中。このほか教育研修チームでは、各地でのジェンダー平等についての授業・企業研修の実施、都道府県での包括的性教育プロジェクトなどを推進している。

<活動報告サイト> <https://asuniwa.org/archive>



風間 暁 (かざま あかつき)
特定非営利活動法人ASK
[社会対策部]
<https://twitter.com/k6rm6>

▶ プロフィール

自らの経験をもとに、依存症と逆境の小児期体験の予防啓発と、依存症者や問題行動のある子ども・若者に対する差別と偏見を是正する講演や政策提言などを行なっている。分担執筆に『「助けて」が言えない子ども編』(松本俊彦編著、日本評論社、2023)、最新著として『専門家と回復者に聞く学校で教えてくれない本当の依存症』(合同出版)。

▶ 活動支援金の活用状況について

市販薬依存であったり、自傷などの行動表出がある若者たちの支援に際して、これまで自腹で捻出してきたぶん、ずっと先延ばしにしてきた車のオイル交換や、壊れた家具の買い替え、食材など、自分の生活のために半分ほど使いました。残りは、引き続き、若者たちの支援のために使っています。会って食事に行く時のご飯代や交通費であったり、緊急で逃げるためのホテル代であったり。あとは、ひきこもり・不登校の子どもたちと一緒に時間を過ごし、なんとか今日一日を一緒に乗り越えていくということもして、そのためにオンラインの居場所をつくりました。作成と維持に費用がかかるわけではありませんが、とにかく時間がかかるため、そのぶん仕事をセーブしました。そこの補填としても使用させていただいています。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

まだまだ、自分でしかできないことをしている自覚があり、持続可能性が低いと感じています。そして、事業展開できるようなことでもなく、本当に地道な草の根で、誰かの命を、今日一日だけ繋ぎ止めるやり方です。必要ですが、なかなか広く、橋渡ししていくことが困難な道のりです。最近は少しずつ仲間が増え、持続可能性を高めていくためのアイデアを練っています。

<活動報告サイト> <https://www.kyobun.co.jp/article/2024031106>



河野 恵美子 (こうの えみこ)
大阪医科薬科大学一般・消化器外科
[助教]
<https://www.aegis-women.jp>

▶ プロフィール

2008年より外科分野におけるジェンダー平等と女性のエンパワーメントの実現を目指し活動を開始。2015年2名の女性外科医とAEGIS-Womenを設立。2020年に内閣府男女共同参画局「女性のチャレンジ賞」(個人)、2024年に「女性のチャレンジ支援賞」(AEGIS-Women)を受賞。同年、平塚らいてう賞「特別賞」(AEGIS-Women)を受賞。

▶ 活動支援金の活用状況について

1. 政治

日本の中心で政治を動かしている人がどのような考えをしているのか、どうすれば男女格差是正ができるのか、その糸口を見つけるために政経塾で勉強させていただきました。

2. 研究

手術で使用する医療機器は男性仕様であり、女性は使い勝手が悪いと感じており、労働関連筋骨格系障害も多いのが現状です。これを是正するために手術機器の研究や開発を行っております。支援者に選定いただいてから2本の論文を発表し、いずれもパブリックリソース財団からご支援いただいていることを明記させていただきました。2025年は、自身が開発に携わった手術機器の有用性の研究を行う予定で、いただいた資金を活用させていただくことにしています。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

2022年に手術執刀数の男女格差と男女別の手術短期成績の研究結果を超一流雑誌であるJAMA Surgery (IF16.9: 外科系雑誌世界第1位)とBMJ (IF93.3: 医療系雑誌世界第5位)に発表しました。その結果をうけて、2023年7月14日に男女の均等な活躍に向けた意識改革や支援を盛り込んだ宣言(函館宣言)が日本消化器外科学会から発出されました。2024年に自身が会長を務めている消化器外科女性医師の活躍を応援する会が内閣府男女共同参画局「女性のチャレンジ支援賞」、平塚らいてう賞「特別賞」を受賞しました。2025年は、性差を考慮した手術機器(ジェンダード・イノベーション)の研究に注力したいと考えています。

<活動報告サイト> https://www.gender.go.jp/public/commendation/women_challenge/katoudoug-r06.html
(浜田敬子さんと対談)

<https://medical.jiji.com/topics/3473> (長野智子さんと対談)

<https://medical.jiji.com/topics/3612> (羽鳥慎一モーニングショー: 浜田さんからの推薦)

https://news.tv-asahi.co.jp/news_society/articles/900004372.html
(超党派議員連盟の勉強会の講師: 長野さんからの推薦)

<https://www.carenet.com/news/general/carenet/58812>



仲本 千津 (なかもと ちづ)
株式会社RICCI EVERYDAY
[代表取締役]
<https://www.riccieveryday.com>

▶ プロフィール

1984年静岡県生まれ。大学院を卒業後、大手邦銀で法人営業を経験。その後、国際農業NGOに参画し、ウガンダの首都カンパラに駐在。その時に出会ったシングルマザーたちとともに、カラフルでプレイフルなアフリカンプリントを使用したバッグを扱う「RICCI EVERYDAY」を日本に暮らす母と立ち上げる。

▶ 活動支援金の活用状況について

活動支援金は、女子中学生のリーダーシップ教育事業に関連する業務に使用された。まず昨年出版した、当方を題材とした書籍「江口絵理著『アフリカで、バッグの会社 はじめました』さ・え・ら書房」が、第70回青少年読書感想文全国コンクールの課題図書(中学生の部)に選出され、受賞に伴いメディア取材を受けたり、広く周知させる活動を行ったりした。二つ目に、中学校・高等学校・大学での講演会を本年も10回以上実施し、当方の経験をもとにグローバルマインドを養うこと、またサステナビリティとは何かを考えるきっかけを提供することを目的とした講演を実施した。最後に、自社独自の女子中高生向けリーダーシップ教育プログラムの開発を引き続き進めている。協業できる会社も見つけたので、事業化につなげていきたい。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

先日行われた衆議院選挙は、これまで実施されてきた中で最も多くの女性議員が選出された選挙になったことなどから、少しずつジェンダーギャップの解消に向けた動きが進捗しつつある。一方で、SRHRや夫婦別姓の問題など解決しなくてはならない課題も多く、分断された社会の中でそれらを推進することの難しさを、本基金受賞者の活動報告や各種メディアから感じ暗澹たる思いでもある。当方がやろうとしている事業は、苦境に立たされている自分や他人をどう支援するかという原体験をプログラムの中で提供するものだとも認識しており、若年女性たちが一人でも多くこういった体験をすることで、より大きな課題を認識する力やそれらを解決する力を養うことに繋がると考えている。

<活動報告サイト> <https://www.riccieveryday.com/collections/unstoppable>



咸 多栄 (はむ だよん)
bgrass株式会社 [CEO/CTO]
https://x.com/damuha_

▶ プロフィール

ジェンダーギャップをテクノロジーで解決する、女性エンジニア向けハイススキル転職サービス[WAKE Career]を運営。韓国生まれ日本育ち。新卒からエンジニアとして開発に従事。IT業界のジェンダーギャップ解消を目指し、2022年7月にbgrassを創業。2024年 Forbes Women In Tech 30 に選出。

▶ 活動支援金の活用状況について

女性エンジニア向けハイススキル転職サービス[WAKE Career]をのMVPを開発する費用として、利用させていただきました。いただいた支援金があったからこそ、最初にMVPを開発し企業にいち早く提供することで、価値を届けるヒントがみつき、現在までこれできていると考えています。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

会社員時代から一貫して、「IT業界のジェンダーギャップ解消」を掲げたアクションは全く変わっていません。このことが評価され、Forbes Women In Tech 30 テクノロジー領域で未来を創造する30人の女性に選出いただくことができました。また、WAKE Careerの登録者数は1300人を超え、企業導入数も50社を目前としています。採用活動を通して、企業のDEIやジェンダーギャップ解消の意識を上げ、さらに女性側のエンパワメント、経済格差を解決できていっていると、強く感じます。テクノロジーの力で200年かかるジェンダーギャップ解消を50年にしていきます。

<活動報告サイト> https://x.com/WAKE_Career



福田 和子 (ふくだ かずこ)
#なんでないのプロジェクト
FIFTYS PROJECT
[SRHRアクティビスト]
<https://lit.link/kazukof>

▶ プロフィール

スウェーデン留学をきっかけに、2018年、日本でのSRHR(性と生殖に関する健康と権利)実現を目指す#なんでないのプロジェクトを開始。スウェーデンで公衆衛生学修士号取得後、国連人口基金に勤務。現在は東京で活動。2023年Forbes Japan 30 under 30選出。東京大学特任研究員。

▶ 活動支援金の活用状況について

- 6月 法人化
- 7月 DBS法案署名大臣提出
「日本版DBSの対象に下着盗窃やストーカーを含めてください!」37,127筆の署名を加藤鮎子大臣(当時)に提出、性暴力理解増進・取組み強化を訴え。
- 10月 CEDAW政策提言
8年ぶりCEDAWに6団体でSRHR市民社会レポートを提出、それを踏まえジュネーブCEDAWでの政策提言を展開し、SRHRについての勧告を複数得られました。
- 11月 #ED治療薬より緊急避妊薬を薬局で
12/24 ED治療薬「時短スキーム」での薬局販売検討についてのパブリックコメント締切に向け、キャンペーン展開中。
- 12月 私のからだデモ
トランプ氏勝利後広がったYour Body My Choiceや百田発言等に反対し、#私のからだデモを東京駅で開催、約300名参加、北海道から沖縄まで13か所で連帯アクション、オンライン視聴も1500回を超える運動になりました。
- AERA「現代の肖像」掲載

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

今年、基金を使わせて頂き法人化が叶ったこともあり、来年度以降3年間、SRHR政策提言推進のための資金を頂けることになりました。今年は特にCEDAWに行けたことで、政策提言、経験、繋がりの中から、今後に繋がる大きな収穫を得ました。例えば、#私のからだデモでは、性的マイノリティ、ミックスルーツ、セックスワーカー等、あらゆる属性をもって活動する皆さんと、SRHRforALLを掲げられました。現在、それらの経験やつながりを生かし、他団体とも協力し、CEDAWでの経験・勧告を活かした次世代SRHRユースアクティビストを増やすための長期的な取り組みを計画をしています。

世界的には、トランプ氏の当選をはじめ、今後数年は、SRHRやジェンダー平等は危機にさらされると思います。一方で来年は、リプロダクティブ・ヘルス・ライツの国際的な確率から30年を迎える節目の年です。SRHR実現のため、引き続き頑張ります!

<活動報告サイト> <https://dot.asahi.com/articles/-/237737>
(あって当然の「性の健康と権利」が日本にないのはおかしいって言いたかった SRHRアクティビスト・福田和子)
<https://www.asahi.com/articles/ASSBZ2CM2SBZUTFL002M.html>
(「自分たちの声が届いた」泣きながら聞いた女性差別撤廃委員会)



森崎 めぐみ (もりさき めぐみ)
一般社団法人日本芸能従事者協会
[代表理事]
<https://artsworkers.jp/>

▶ プロフィール

俳優。2021年、芸能分野への労災保険の適用改正に続き、フリーランス法や過労死対策の重点分野に働きかける。著書「芸能界を変える——たった一人から始まった働き方改革」(岩波新書)が12/20刊。共立女子大学非常勤講師。文化庁文化芸術分野の適正な契約関係構築に向けた検討会議委員。

▶ 活動支援金の活用状況について

メンタルケア相談窓口「芸能従事者こころの119」臨床心理士業務委託費用、パソコン購入費、ホームページ改修費用に活用させていただきました。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

これまでになかった芸能界の中間組織として、人数や団体会員数が相当数(現在約5万2,000人)増えたことで、一定の影響を持つようになって来ました。海外の団体と連携しながら、AIや安全衛生、ハラスメント対策等の取り組みが、次世代の女性の代表団体代表として認識されてきたと感じています。

<活動報告サイト> <https://www.iwanami.co.jp/book/b653708.html>。
<https://www.m-meg.com>

10 2021年度 支援対象者による活動報告



Wim.sakura (ウィム サクラ)
株式会社Plusbase [創業者]
<https://nursebe.jp/>

▶ プロフィール

「日本の進んだ医療を世界に」という思いで看護師になるも、心身を崩す挫折を経験。その後、心療内科にて働く人々の心のサポートを行う中で、日本の“働く人の心を守る仕組み”(EAP)に疑問を持つ。まずは、「いのちを守る人々」を守るべくPlusbase inc.を創業。Z世代看護職向けメンタルサポートサービスの「ナースビー」などの開発に従事。

▶ 活動支援金の活用状況について

Z世代看護職向けメンタルサポートサービスの「ナースビー」などの開発に活用しました。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

女性が9割の看護業界においても、働く女性のための様々な仕組みづくりが非常に重要です。特に、心と身体、社会的繋がりにおけるサポートを様々な企業の皆様と連携をとり基盤を作っていきたいです。



斎藤 明日美 (さいとう あすみ)
ノースカロライナ州立大学
りこぴあ [りこぴあ主宰]
<https://rikopeer.org>

▶ プロフィール

NPO法人Waffleを共同創業者、2024年にWaffleを離れアメリカにて情報系Ph.D.に進学。自らの理工系キャリアを深める傍ら、理工系女子学部生コミュニティ「りこぴあ」の運営や、人工知能学会にてD&I推進にも貢献。#WomeninSTEM

▶ 活動支援金の活用状況について

Waffleにて事業開発に利用。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

Waffleでは女子学生の理工系へ進学・就職を応援していましたが、現在は理工系に進学した先で女子学生が障壁なくあらゆる機会を手にすることができるよう、学部生を中心としたコミュニティ作りをしています。また、アカデミアの変革なしには理工系女子学生がこの道が続けることはありません。学会では大会や研究会の運営委員の方々に少しずつD&Iの必要性が根付いてきたように感じてますが、道のりは遠いです。アメリカにてPhDを始めましたが、クラスでは女性の方が多く、女性の教授も多くいます。今後は理工系アカデミアにてキャリアを積み、アメリカのジェンダープラクティスを日本でも実践していけたらと考えています。



能條 桃子 (のうじょう ももこ)
NO YOUTH NO JAPAN
FIFTYS PROJECT
[代表]
<https://www.fiftysproject.com>

▶ プロフィール

1998年生まれ。2019年、若者の投票率が80%を超えるデンマークに留学し、若い世代の政治参加を促進するNO YOUTH NO JAPANを設立。2022年、政治分野のジェンダーギャップ解消を目指し20代・30代の地方選挙への立候補を呼びかけ一緒に支援するムーブメントFIFTYS PROJECTを行う一般社団法人NewSceneを設立。

▶ 活動支援金の活用状況について

①被選挙権年齢引き下げ18歳実現を目指して、「立候補年齢引き下げプロジェクト」を開始しました。公共訴訟とロビー活動に取り組んでいます。

②2022年夏、政治分野のジェンダーギャップ解消を目指し、地方議会からの立候補を呼びかけ支援するFIFTYS PROJECTを始めました。2023年4月の統一地方選挙では29名の立候補を支援、24名が議員になりました。現在は2027年4月統一地方選挙に向けて、100名の立候補を呼びかけ支援することを目指して活動をしています。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

女性リーダー支援基金の受賞から、3年が経つ。男女平等のための長い列の最後尾で、私も次の世代の女の子たちに少しでもマシな社会を手渡すためにできる限りのことをしたい、という意欲、信念は変わらないが、社会情勢や自身の活動の進展により、課題意識は変化しているかもしれない。

(1) 受賞時23歳だった私は次の春には27歳になる。「若者団体」の組織継承とともに、さらに少子化が進む中、次の世代の若者たちに、自分たちの運動の中で何を残せるのか、考えるようになった。被選挙権年齢引き下げはまず実現させたい。

(2) 若者と高齢者の分断言説が選挙でも多用され、力を持つようになっていく。フェミニズムはこの分断を乗り越える鍵だと思っており、ケアをコストではなく大事な価値と位置付け、社会保障を維持・進展できるように、若い世代のフェミニズム運動を進めていきたい。

<活動報告サイト> <https://fiftysproject.com>



濱田 真里 (はまだ まり)
Stand by Women [代表]
<https://standbywomen.mystrikingly.com>

▶ プロフィール

専門は政治分野におけるハラスメント。2021年にStand by Womenを設立し、女性議員・候補者のサポート活動を実施。2022年に子育て中の女性の立候補を支援する「こそだて選挙ハック!プロジェクト」を始動。2023年に日本初の議員向け相談窓口「女性議員のハラスメント相談センター」を設立。

▶ 活動支援金の活用状況について

支援金は、主に3つのことに利用してきました。1つ目が候補者や議員の方に対する無償での相談体制の実施です。現在10人の議員に対する複数人のチーム体制による長期サポート(選挙期間外も継続してサポート)を行っています。約20名のメンバーでこれらのサポートを行っています。すべてのサポートは無償で行われています。2つ目が2023年から提供をはじめた『選挙ボランティアのしおり』の必要経費です。こちらは約半年かけて作成し、サイトから無料で利用できるようになっています。3つ目が研究調査にかかる必要経費としての利用です。女性議員だけでなく、男性議員向けのハラスメント等のヒアリング調査も実施しています。これらの調査にかかる必要経費や、調査に必要な書籍等の購入にあてています。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

2021年の立ち上げから、女性候補者や議員に対する様々な支援を行ってきました。現場でのお手伝いやSNS戦略、ハラスメント相談対応などを行うとともに、選挙で必要なボランティアという存在にもジェンダーギャップがあることに注目し、お手伝いしたいと思える人を増やすために『選挙ボランティアのしおり』を作成しました。内容は、具体的にできるお手伝い方法から公職選挙法の基本的な知識まで、簡単にわかりやすく説明し、無料でサイト上からダウンロードが可能です。これまでに1万枚以上配布し、現在もサイト上での提供を続けています。今後は、ハラスメント相談をはじめとするチームでのサポート活動の継続と、男性議員へのヒアリング調査のまとめを行い、政治分野におけるハラスメントの実態をさらに明らかにしたいと考えています。

<活動報告サイト> <https://standbywomen.mystrikingly.com/guidebook>



吉岡 マコ (よしおか まこ)

特定非営利活動法人
シングルマザーズシスターフッド
[代表理事]

<https://www.singlemomssisterhood.org>

▶ プロフィール

シングルマザーを対象に「心身のケア」と「つながり」の機会を提供。東京大学文学部で身体論を学び同大学院にて運動生理学を学んでいた1998年の出産をきっかけに産後ケア教室を開始。2008年NPO法人マドレボニータを設立し産後ケアの普及や啓発に尽力した。2020年に同法人の代表を退き、ひとり親支援を開始。

▶ 活動支援金の活用状況について

女性リーダー支援基金を活用させていただき、「シングルマザーのセルフケア講座」の次のステップにあたる「グループリフレクション」を導入しました。2週間に1回60分、3～4人のグループで集まり、記入してきた振り返りシートにそって、2週間の振り返りと、次の2週間で頑張りたいことの宣言をし、仲間からフィードバックを得ます。セルフケア講座は、受け身でも参加できる場ですが、グループリフレクションは自らが進行役を引き受けたり、仲間へフィードバックしたり積極的な姿勢が求められる場です。セルフケア講座で心身をケアする習慣を身につけた後は、その人らしさを発揮できる場として、非常にパワフルなピアサポートの場となっています。これまで1～6期生が終了し、126名が参加しました。来年1月からは7期生がスタートします。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

女性リーダーにとって健康は避けて通れない問題です。「セルフケア」という言葉がここ数年でよく使われるようになりましたが「自分へのご褒美」というような、ゆるいニュアンスで無責任に使われていることがあります。しかし本当のセルフケアには、意志を持った継続的なコミットメントが必要で、真のセルフケアは「ご褒美」のような突発的なものではありません。時間をとって、ストレッチや瞑想やランニングに取り組むなど継続的なコミットメントは困難な状態に陥っている人ほど自分一人の力では難しく、それができるようになるきっかけやサポートが必要です。シングルマザーのセルフケア講座を単発イベントとしてではなく毎週の定期開催としているのは、一人ひとりの意志を持った継続的なコミットメントをサポートするためであることを改めて再確認しています。今年はランニングクラブを作ってみんなで走るという環境を作ることにチャレンジしています。